

# 家族シミュレーション

子育てを「ちょっと」体験して、先輩家庭と話して  
両立のヒントを見つけよう!

子育て未経験の30代以下の若者が  
共働き家庭と交流して「子育て」を疑似体験



1 2  
3 4



# 参加企業からの メッセージ

## 出会うことのない人同士を 繋げるきっかけに!

### 株式会社 アイネット

人事部次長 兼 ダイバーシティ推進室長 高野 博司氏

当社では「性別や家庭の環境問わず、全ての社員に長く勤めてもらいたい」という人事の施策の下に、両立支援制度を整備しています。しかし、最近では運用面での課題を徐々に感じており、今回の家族シミュレーションには若手社員に参加してもらいました。実際に参加した社員は、子育て中の家庭の「生の声」や、まだ食事やトイレも一人でできない子ども達と交流することで多様な選択肢があることに気づき、将来のライフスタイルへのイメージを持てたようです。社員を送り出す上司も見学者として同席することで、普段は会社で働いている部下が終業後に子供の世話をする事の大変さを実感することもできました。

「日常生活では出会うことのない人同士を結び」という本事業と、企業研修がどうマッチしていくのか、これからの展開が楽しみです。

## 社員を見守って感じていたこと

### 株式会社 ダッドウェイ

ダイレクトマーケティング事業本部 齋藤 由希子氏  
業態開発グループ

子ども、親子を対象にした商品を扱っているのですが、若手社員に実際に親子の方々と関わる場面、経験をつくることにつながったことが、有意義でした。

体験参加のために業務の時間を割いて時間をつくるということの大変さはありますが、そのことそのものが、ワークシェアにつながっていると考えています。



### アドバイザー この事業に協力しています

- 伊藤美樹雄氏 株式会社アイネット 執行役員  
清水 壮一氏 たんぽぽ保育園 保育士  
田口 亜佑美氏 伸びる会幼稚園 教諭  
田邊 雅子氏 グロースサポート社労士事務所 代表  
橋本 諭氏 産業能率大学 情報マネジメント学部 准教授  
堀 聡子氏 東京福祉大学短期大学部 こども学科 専任講師

## びーのびーのからのメッセージ

## 私たちに応援させてください!

仕事をしながら結婚、出産を考えたときに、自分が育った家庭環境とのギャップに悩む子育て家庭が増えています。子育てを助けてくれる祖父母世代が近くにいない子育て家庭も多い時代です。

結婚、出産の時期が遅くなり、子どもとふれる機会を長い間もたずに妊娠出産を迎える家族は、妊娠中から、子どもをかわいがれるのか、保育園に入れるのか、仕事と子育ての両立ができるのか、という不安を抱えがちです。

私たちは、**安心して出産や子育て期を迎えてほしい、悩みを分かち合い、子育ての仲間に出会える場所を知ってほし**

**い、子育てをする前の若い世代にも、子どもに関わる機会をもってほしい、**と考えています。

家庭でもない、職場でもない、**第三の地域の居場所である子育て支援施設**は、仕事と子育てを両立している先輩家庭が、職場で見せない「働きながら子育てをする知恵」や「工夫」をリアルに若い世代へ伝えてくれる場所です。

ちょっとした体験を通して、将来のイメージをふくらませ「**家族シミュレーション**」という取り組みが未来の仕事と子育ての両立を支える「きっかけ」になることを願っています。

理事長 奥山 千鶴子

お問い合わせ

認定NPO法人 びーのびーの

〒222-0037 横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103  
【Tel】 045-877-2156 【Fax】 045-883-7619 【E-mail】 kikaku@bi-no.org

イラスト・デザイン/よよデザイン

2019.03

# 活動

活動は、オリエンテーション・子育て「ちょこっと」体験・振り返りの会の3つのプログラムで構成されています

## 6月 参加企業開拓のための訪問・参加募集スタート

## 10月 オリエンテーション

概要	子育て「ちょこっと」体験前に、2時間程度のレクチャーとワークショップ。子どもと関わったことがない方でも安心して参加できます。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークライフバランス・自分の将来を考える</li> <li>●保育士より子どもとの関わり方を学ぶ</li> <li>●家庭と顔合わせ・活動日の調整</li> </ul> 

### 10月22日(火)

16:30 退社 定時退社より1時間早く切り上げるのは結構大変!

17:30 ビーのビーの(菊名)で待ち合わせ  
Aさん親子(ママと子ども2人)  
ビーのビーのスタッフ同行あり

- ★子どもと遊ぶ
- ★ご飯を一緒に食べる(食事中も、絵本読んでとせがまれました!)
- ★仕事と子育てを両立している現状についていろいろ話を伺う



19:45 活動終了&帰る(子どもは眠ろうだった)

## 子育て「ちょこっと」体験 (のべ活動回数:15回)

内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就業後2時間程度(平日17:00頃~20:00頃)</li> <li>●共働きの子育て家庭を想定した疑似体験</li> </ul> <p>短時間勤務で保育園へお迎え、ビーのビーの施設を「家」と見立てたり、実際に家庭に行き、子どもと遊んだり、ご飯を一緒に食べる ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児と触れ合う体験、家庭から仕事と子育てを両立するにあたっての話を伺う</li> </ul>
活動場所	受入れ家庭の自宅/ビーのビーの運営施設 ※ビーのビーのスタッフが同行

### 10月25日(金)

16:30 退社 前日より少し余裕を持って仕事が出来た (大倉山駅)

17:45 ビーのビーのスタッフと待ち合わせ  
→ ABCD保育園に向かう

18:00 保育園前でBさん(パパ)と合流  
保育園に初めて入る(園にいる子ども達、元気いっぱい、ビックリ!)  
子どもと手をつないで、パパ&ビーのスタッフと一緒にスーパーで買い物をしてから、Bさん宅まで歩く(交通量が多くて緊張...)

19:00 Bさん宅に至り着  
★みんなでご飯を食べる  
★子どもと遊んだり、パパからお話を伺う(19:30頃、ママ帰宅)



20:00 合流が終了と帰る  
子どもから「また遊んで〜」と手をふってもらった!!!

## 11月 振り返りの会

概要	有識者によるワークショップ
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●体験を参加者同士でシェア</li> <li>●体験前後での価値観の変化、今後の働き方を考える</li> </ul> 

## 体験者の声

両立することになったとしても、時短でしか働けないと思っていた。助けを借りれば、フルタイムは無理ではないと思えた。

保育園で過ごす子ども達への見方が変わった。

子どもに食事をさせながら、自分も食べることでこんなに難しいことだったんだ。

子ども・家族を対象にした商品を扱っているのだから、実際のユーザーに触れられて仕事に活かせる。

他の会社の人と情報交換ができたことが新鮮。もっと話せる機会があったらいいと思う。

男性にこそ、体験してほしいと思った。

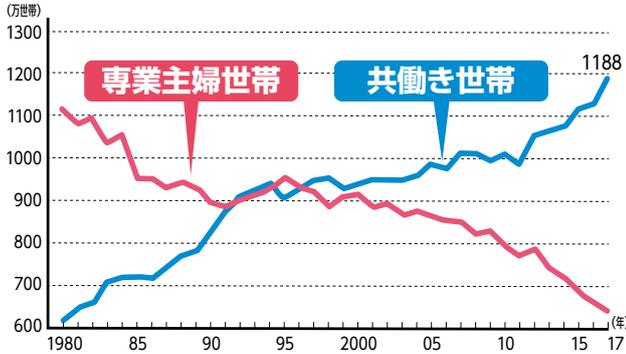
その家庭なりに両立のポイントがあり、パートナーとの分担があつてこそその両立だと知ることができた。女性だけががんばるのではないことを感じた。

# 背景と課題

仕事をしながら、子育て・家事をしている人が多い世の中になったのに、両立に不安を持っている人が多い現状です

## 専業主婦世帯と共働き世帯 (1980年~2017年)

### 共働きのあたりまえの世の中

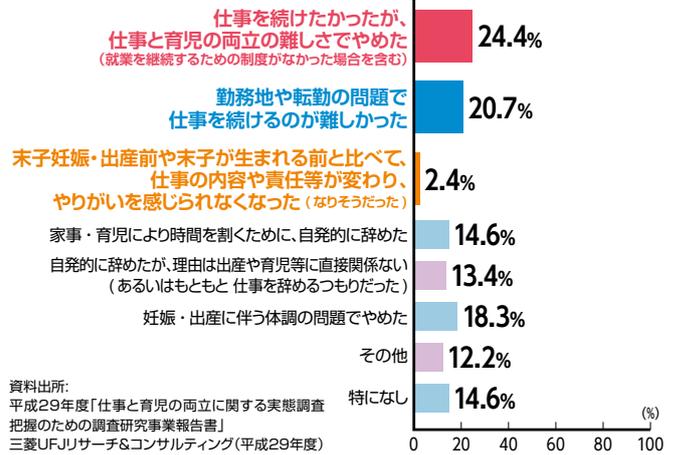


資料出所: 厚生労働省「厚生労働白書」、内閣府「男女共同参画白書」、総務省「労働力調査(詳細集計)」

(注1)「専業主婦世帯」は、夫が非農林業雇用者で妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。  
 (注2)「共働き世帯」は、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。  
 (注3)2011年は岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

## 妊娠・出産前後に退職した理由 (複数回答)

### 退職理由、第1位は両立の難しさ



資料出所: 平成29年度「仕事と育児の両立に関する実態調査 把握のための調査研究事業報告書」三菱UFJリサーチ&コンサルティング(平成29年度)

## 子育てが始まる前に両立への不安を減らしたい!

だから、今

### 家族シミュレーションで体験してほしいこと

やりたい仕事を辞めなくちゃいけないの?

保育園の子どもは寂しくないの?

どんな風な毎日をお過ごしているんですか?

大変じゃないんですか?

パートナーとはどう話し合っているの?

家族シミュレーションをきっかけに

実際に

## 子育て家事をシェアしている人のリアルを知って、将来の自分の生き方を考えるきっかけにしてほしい。

私の「両立」のことを話したことで、「うちの子育て」を改めて自分でも肯定できた。

仕事を切り上げてからの慣れない子育て体験で「疲れた」「無理…」と思ったその気持ちこそがまさにリアル! 「体験した」と「しない」のとでは、何か絶対違うはず。

いろいろな人が我が家の子育てに関わってくれたことで人にゆだねる大切さに改めて気づいた。

受入れ家庭の

声

受入れ家庭: 7家族

